26 ――浴衣姿に宿る男の粋

今月の講師
永井とも子さん
インターナショナル儀礼文化教育研究所 理事長

日本の儀礼文化及び有職故実、特に礼法の研究を通じ、実践女子大学、学習院女子大学、青山学院大学、目白大学等で講師を務めるほか、メディアでは礼法・着装を担当し、教育機関、企業、芸能界まで幅広く講演・指導を展開。特に、儀礼文化、礼儀作法の必要性を強く感じ「日本の古き良き文化を身につけ、世界に対応できる国際人を育てる」をコンセプトに次世代育成に力を注いでいる。「儀礼（マナー）は品格をつくる」（ヒーロー出版）が6月末発売予定。

浴衣は本来外出着にあらず。フォーマルな場所にはそぐわない

浴衣の起源は、平安時代、蒸し風呂で着替が身につけていた「湯帷子（ゆかたびら）」だといわれており、後の時代もずっと、浴衣は入浴後に身につけるバスローブ及部屋着だった。よって浴衣のまま電車や車に乗って遠出するのは、本来不自然なことなのだ。現代の浴衣は、「夏用着物」との境目が曖昧になりつつあるが、いくら風通しのよいシーンでも、グランメゾンにはふさわしくないのと同様、浴衣もフォーマルな場にはそぐわない。もっとラフに考えて、近所のビストロや屋台屋、地元のお祭りなどに、浴衣をさっと着付けてきました、という風情で行くのが粋というものだ。

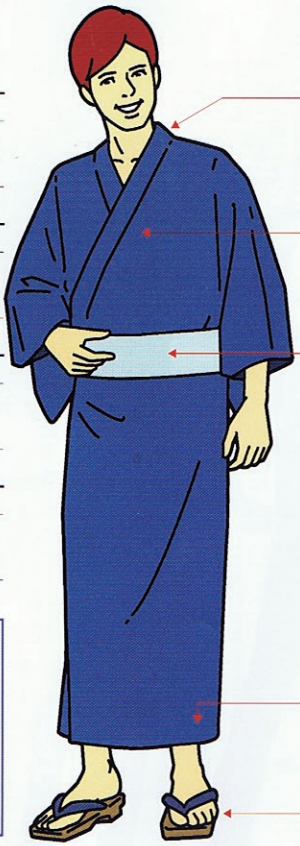
浴衣を着たときの立ち居振舞い

浴衣姿は、いわばカジュアルウエアなのだから、細かいことは気にせず、胸筋を伸ばして堂々とふるまいたい。あまりちまちまか動くよりは、大きくゆったりとした動作がいい。

日本男児らしく堂々とふるまうために

1 背筋を伸ばす
2 胸を張る
3 腹に力を入れる

男の着物は「腰で着るもの」といわれるが、浴衣も同じ。帯が腰骨でピシッと落ち着いているのが美しい。肩をクッと脚くイメージで胸を張り、ヘソの少し下あたりに力を入れると、どっしりと腰の据わった印象に。



衿は抜かない

女性は衿を抜いて着ると色っぽく見えるが、男の場合は、着物であれ浴衣であれ衿を首にピタッとつけて着る＝衿を抜かないのが基本。

胸元ははだけすぎない

胸元をあまりピタッと閉じるとなんだか堅苦しいが、ガバッと開けすぎるとだらしない。手のひらがスッと入る程度の余裕を持たせるのが正解。

帯は腰骨まで下げる

帯は腰骨のあたりまでグイッと下げ「前下がり・後上がり」の形するとと安定する。結び目は後ろ、腰の中心部から少しずらした位置にするとと粋。

浴衣を美しく着るポイント

着崩れて見せるポイントは「上はゆったり、下はきっちり」。まず全身をピシッと着てから、気持ち胸元を開けると格好がつく。周囲から見ても涼しげな着こなし、コーディネートができれば上出来だ。また、浴衣の際は手ぶらがベスト。財布やケータイは彼女のバッグに入れてもらうか、それが無理なら、財布を袂から入れ、下前の内側に差しこんでおくという上級テクニックもある。

身丈はくるぶし

着物の場合はくるぶしが隠れる程度だが、浴衣はそれより少々短めのほうがスッキリ決まる。

下駄が基本

サンダルよりは雪駄のほうがいいが、浴衣には下駄が正式。下駄履きNGな場所＝浴衣もNGだ。

歩くとき

下駄が滑って脱げないよう、足の親指と人差し指で鼻緒をしっかりと挟んで歩く。女性のように小股でちょこまかではなく、比較的大股ややや外股でゆっくりのほうが男らしい。

座るとき

正座で裾の乱れが気になるときは、上前を少し引って深めにしておき、そのままスッと座る。胡座の場合は、あまり気にしないで座り、少しくらいはだけてもOK。

腕を上げるとき

女性のように、袂を押さえる必要はないが、慣れない人が大きなアクションをすると、着崩れの原因になることも。常に袂があることを意識し、ものを引っかけないよう注意。

食べるとき

袂に注意する以外は、洋服のときと同じ。たまには浴衣で屋間から懸蕎屋へ、なんて酒落てみたいものだが、汁が飛ばないよう気配りして楽しめないくらいなら、遠けたほうが無難。

浴衣の彼女を気遣うポイントは？

彼女の動きを先読みしてサポートすべし

女性の場合、普段より動きが制限される。特に、手を上げる動作（荷物を上げる、タクシーを止めるなど）は男が率先し、歩くときもややゆっくり、手を差し伸べる気遣いを。

手ぬぐいがサッと出るとポイントUP！

女性のハンカチは基本的にバッグの中なので、出すのに少々手間がかかる。喫煙のときには、男が袂から手ぬぐいを取り出し、サッと渡してあげると男を上げることができる。

イラスト／千野エー　取材・文／伊藤由起